

都市再生整備計画(第1回変更)

たておか 楯岡地区(第3期)

山形県 村山市

令和8年2月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

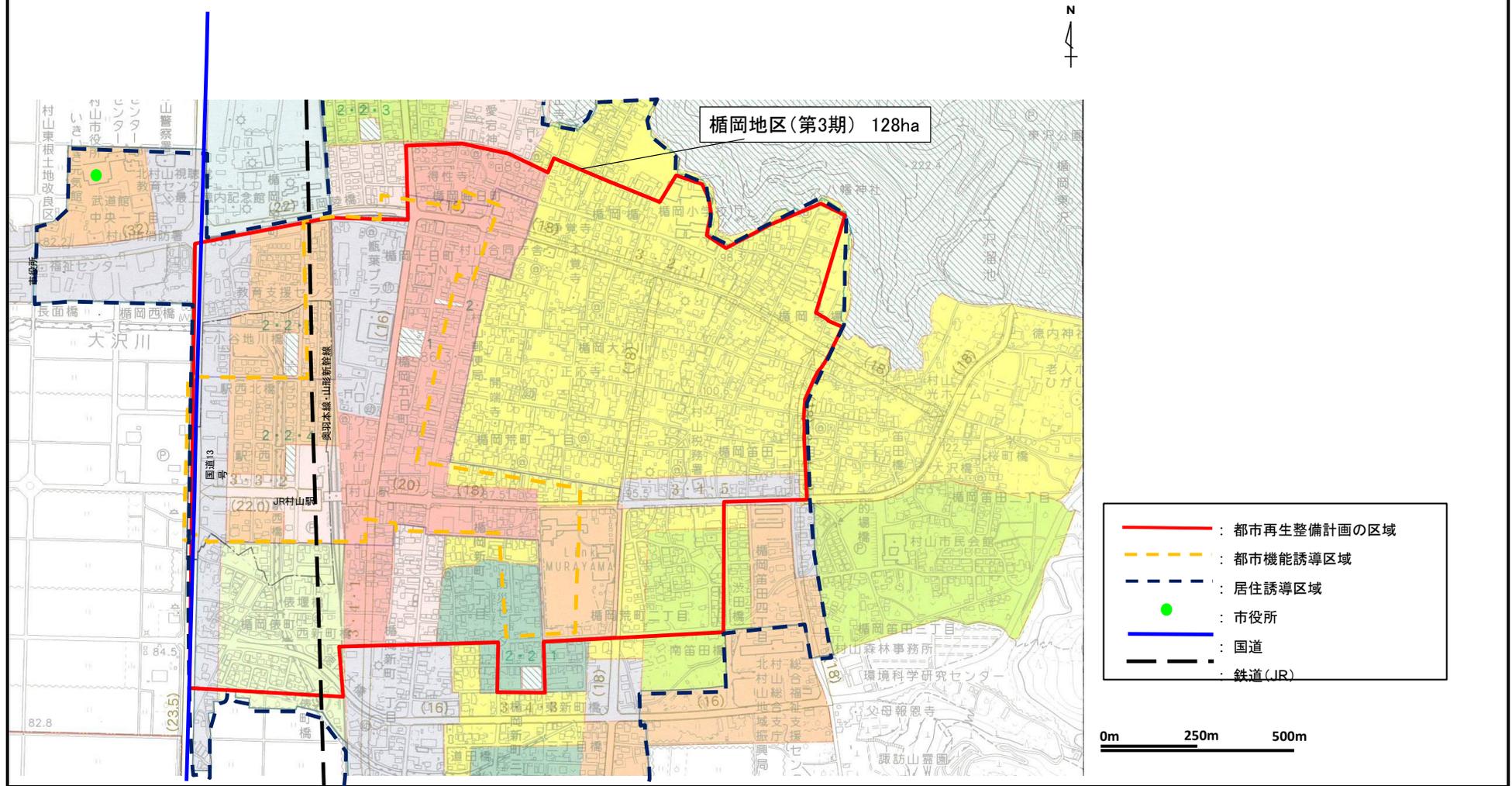
都道府県名	山形県	市町村名	村山市	地区名	楯岡地区(第3期)	面積	128 ha
計画期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度	交付期間	令和 7 年度 ~ 令和 11 年度				

<p>目標</p> <p>大目標： 県立高校跡地利活用を核とした市街地の活性化と防災力の向上 ◇楯岡高校跡地を活かした交流・賑わいのあるまち ◇災害に対応し安全で快適に暮らせる楯岡</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>県立楯岡高校の跡地は楯岡地区市街地の中心地にあり、JR村山駅からは徒歩7分と、本市のにぎわいを創出する上で非常に重要な立地にある。そのため、市は校舎及び跡地の再整備により、多様な利活用によるにぎわい創造や経済効果の発揮により中心市街地の再生につなげていきたい。</p> <p>楯岡高校跡地および周辺の市街地は、土砂災害危険区域や浸水想定区域に指定されていないため、安全性が高い地区と言えるが、狭隘な道路が多く、道路基盤が脆弱であるという課題がある。そのため、自動車交通やバス交通に対応した道路を整備することで、安全性と快適性の高い都市空間の形成を目指したい。また、校舎及び跡地を災害対応拠点としての機能を持たせるほか、災害対応拠点へのアクセスとなる道路の整備も同時に行い、市街地の安全性と安心感の向上を図りたい。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>村山市は山形盆地の北部に位置する。中央に最上川が南から北に流れ、東に奥羽山脈、西に出羽丘陵がそびえる。国道13号、JR奥羽本線が市の東部を、東北中央自動車道が市の中央部を縦断している。都市計画区域の中心である楯岡地区は市の南東部にあり、江戸時代より羽州街道の宿場町として、明治以降は北村山郡役所が置かれ政治、経済の中心として発展してきた。しかし、戦後の高度経済成長と共に価値観の多様化や経済的豊かさも相まって核家族化、モータリゼーションが到来した。近隣市町村で郊外複合型大型商業施設の出店とそれに付随した安価な住宅団地の造成が相次いだことから商業や居住地としての魅力が低下し、人口流出の歯止めが利かない状況にある。市内でも最も雪の少ない楯岡地区でも例年1mに迫る積雪があり、数年に一回、1mを超える積雪となる。人口は平成12年の29,586人から令和2年の22,516人に減少している。高齢化率は同じ年度の比較で27.7%が39.7%に上昇している。</p> <p>楯岡地区は羽州街道(旧国道13号)沿いには商店街が形成され、金融機関の本支店が立地している。旧来からの住宅地は商店街の東側に広がっている。以前は商店街の近辺に市役所をはじめとする行政機関が立地していたが、用地確保の問題から土地取得が容易な郊外部へ転出している。楯岡地区の人口は平成12年10,355人が令和2年に9,646人と減少している。地区東部は出羽丘陵から流れる河川の扇状地であり、広く土砂災害警戒区域が設定されている。また地区西部は最上川の想定最大洪水の浸水エリアに含まれている。安全度の高い市街地は楯岡地区の中心に存在するが、旧来からの住宅地には大型車の通行可能な幹線となる道路が無く、小学生の通学を始めとする歩行者、自転車の安全性や有事における交通確実性が確保できていない。</p> <p>平成28年3月に市街地の中心にあった県立楯岡高校が閉校となった。村山市では利活用について閉校前の平成27年8月策定の第5次村山市総合計画の重要課題に位置付け、翌年から公募による市民・まちづくり協議会・市議会・県の協力により「旧楯岡高校跡地利活用検討市民会議」を立ち上げて検討を重ねた上で、平成30年には公募による利活用希望者、学識経験者、有識者、県の協力により「楯岡高校跡地利活用ワーキングチーム」を立ち上げ、より具体的な利活用のあり方の議論し、よく平成31年に楯岡高校跡地利活用基本構想を策定した。その後、プロポーザルにより設計業務を経て、令和3年より空き家対策総合整備事業を活用し、旧校舎の一部解体及び改修工事を行い、令和4年7月にLinkMURAYAMAとしてオープンしている。翌令和5年には利用者10万人突破した。</p> <p>令和2年からの都市構造再編集中事業(楯岡地区第2期)においては、旧楯岡高校の教室棟及び屋内広場を緑地広場として整備し、併せて旧柔剣道場を備蓄倉庫に改修し、中庭は緑地広場として有事の際は避難場所として活用するなどの防災機能をもたせ、防災拠点とし活用できるよう整備を進めてきた。</p>
<p>課題</p> <p>村山市全体としては、雇用機会や労働力人口の流失にともない、居住人口の減少や周辺都市への生活サービス利用依存等が問題となっている。</p> <p>中心部の楯岡地区における喫緊の課題として下記の3点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年3月に市街地の中心にあった県立楯岡高校が閉校となった。36,000㎡という広大な土地だけでなく、昼間人口にして800人を喪失し、物理的にも、心理的にも大きな空地、いわゆる空き家となり、にぎわいが失われている。 2 楯岡高校北側に広がる、旧来からの市街地は、狭隘道路が多い。徒歩利便性が高いが、道路基盤が脆弱であり、災害時の延焼の危険性や道路閉塞による避難行動や緊急車両の通行に支障をきたす状況にある。市街地奥に小学校があり、狭隘道路が通学路として指定されている。また冬期の除雪作業にも支障をきたしている。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>【総合計画】</p> <p>・平成27年に策定された第5次村山市総合計画の、後期(令和2年度～令和6年度)における基本施策の中に、「中心市街地のにぎわい創出と快適な生活環境づくり」を掲げており、具体的施策の一つとして、楯岡高校跡地の利活用による中心市街地の再生に取り組んできた。その中で楯岡高校を改修しLinkMURAYAMAを整備し令和4年にオープンし、中心市街地の賑わい創出の一翼を担っている。また具体的施策のもう一つとして楯岡高校跡地の活用を含めた「JR村山駅から東へ延びる道の賑わいづくり」とし県が整備を進めている都市計画道路村山駅東沢線や市が安全な通学路、緊急時の避難経路として楯岡小学校に向かう街路の整備を進めている。</p>

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【楯岡高校跡地を活かした交流・賑わいのあるまち】 楯岡高校跡地を改修したLinkMURAYAMA(関連事業)を中心としたにぎわいの創出とアクセス道路の整備。 街路に隣接する大沢川地区広場を整備し、歩行者や周辺市街地のコミュニティ空間を整備し、多目的な活用による賑わいを創出する。</p>	<p>(基幹)街路:(都)楯岡東根温泉線 (基幹)道路:(仮称)市道楯岡小学校線 (基幹)地域生活基盤施設:大沢川地区広場 (関連)楯岡高校跡地活用関連事業(LinkMURAYAMA) (関連)道路:(都)村山駅東沢線(県事業) (関連)地域生活基盤施設:緑地広場(楯岡地区第2期)</p>
<p>【災害に対し安全で快適に暮らせる楯岡】 狭い路地がほとんどを占める旧来からの市街地の道路整備により、地区内住民の指定避難所へのアクセス向上と市街地の奥に立地する楯岡小学校の通学路の安全性を図る。 市街地の中心に位置し、災害リスクの少ないLinkMURAYAMAの周辺施設として第2期計画で備蓄倉庫、緑地広場等を整備し、一体的に防災対応拠点としての機能を持たせたことに併せて、平時からの危機管理醸成と避難所へのスムーズな誘導のための情報板を整備する。</p>	<p>(基幹)街路:(都)楯岡東根温泉線 (基幹)道路:(仮称)市道楯岡小学校線 (基幹)地域生活基盤施設:楯岡地区避難誘導情報板 (関連)楯岡高校跡地活用関連事業(LinkMURAYAMA) (関連)地域生活基盤施設:地域防災施設(備蓄倉庫)、地域防災施設(MHT-イレ) 緑地広場(楯岡地区第2期)</p>
<p>その他</p>	

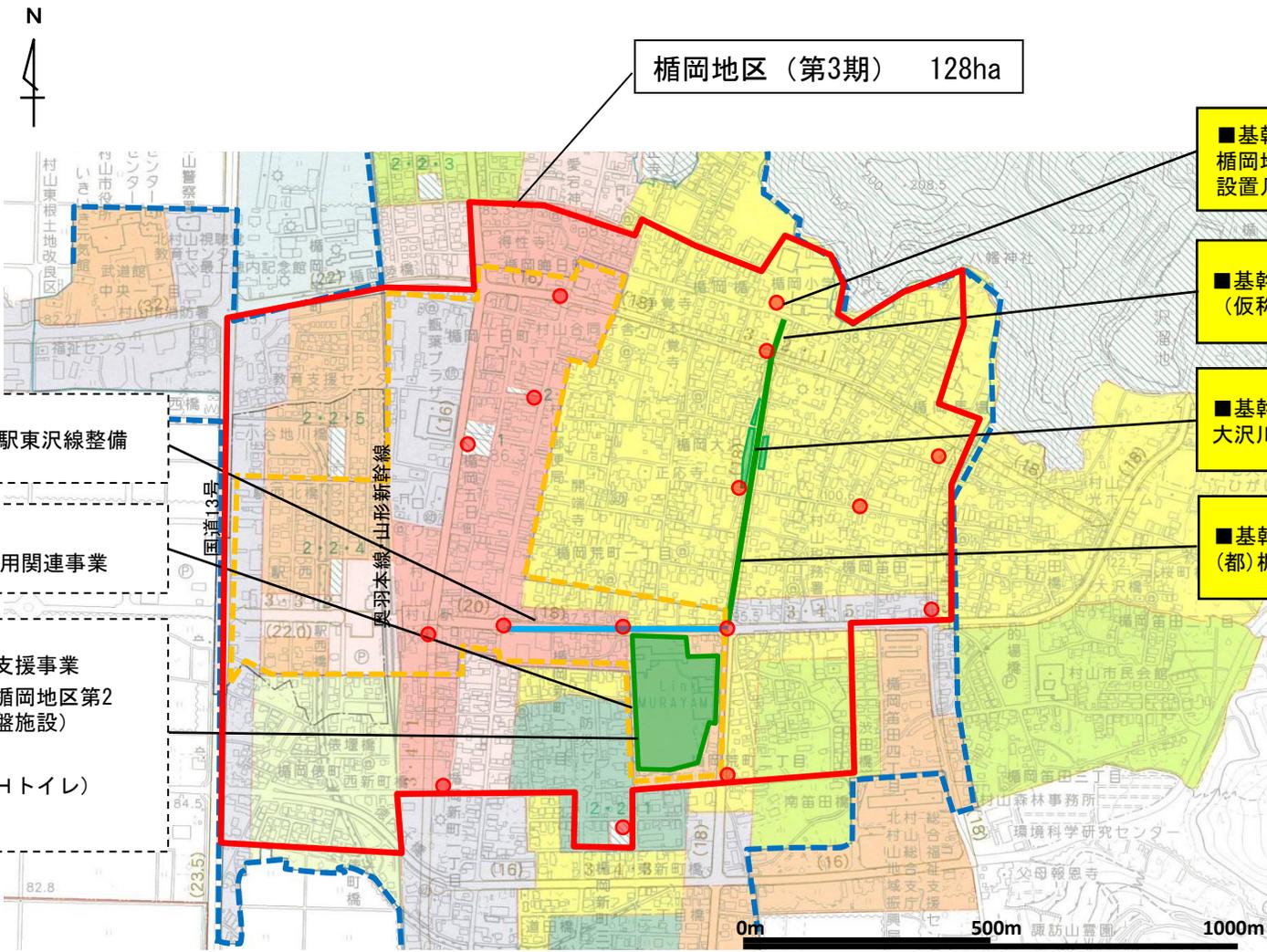
楯岡地区(第3期)(山形県村山市)	面積 128 ha	区域 楯岡新町一丁目の一部、二丁目、三丁目の一部、楯岡五日町、楯岡十日町、楯岡晦日町、楯岡橋、楯岡馬場の一部、楯岡大沢川、楯岡笛田一丁目の一部、楯岡荒町一丁目、二丁目の一部、駅西
-------------------	--------------	--

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



楯岡地区(第3期)(山形県村山市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	県立高校跡地活用を核とした市街地の活性化と防災力の向上 ◇楯岡高校跡地を活かした交流・賑わいのあるまち ◇災害に対応し安全で快適に暮らせる楯岡	代表的な指標	楯岡高校跡地活用イベント開催日数 (日/年)	27 (R6年度)	→	30 (R11年度)
			指定避難所までのアクセス平均時間 (分)	17.7 (R6年度)	→	12.8 (R11年度)
			歩行者・自転車通行量(平日) (人/日)	837 (R6年度)	→	837 (R11年度)



楯岡地区(第3期) 128ha

■ 基幹事業 (地域生活基盤施設)
楯岡地区避難誘導情報板
設置凡例 ●

■ 基幹事業 (道路)
(仮称) 市道楯岡小学校線

■ 基幹事業 (地域生活基盤施設)
大沢川地区広場

■ 基幹事業 (街路)
(都) 楯岡東根温泉線

○ 関連事業
道路：(都) 村山駅東沢線整備
(県事業)

○ 関連事業
楯岡高校跡地活用関連事業

○ 関連事業
都市構造再編集中支援事業
問再生整備計画(楯岡地区第2期)
(地域生活基盤施設)
地域防災施設
(備蓄倉庫、MHトイレ)
緑地広場

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業